

居酒屋談義

第3回

**正副会頭から
若手経営者45人へのメッセージ**

第3回居酒屋談義を3月8日(水)、10日(金)に富山市中心部の飲食店で開催した。若手経営者45人(当所青年部)が、各会場に1人ずつ陣取った正副会頭と歓談した。その夜、人生経験豊富な大先輩たちは若手経営者らに対し、どのようなメッセージを送ったのだろうか。

普段は会う機会もない高木会頭と、お酒を飲みながら話が出来ることあって、緊張を隠せない参加者だったが、会頭が気さくに話し始められたことから、徐々に緊張も解けていった。

北陸新幹線開通による富山の変化の話で盛り上がった一方で、北陸新幹線開通による富山の急激な都会化、都心部の価値観と情報が流入することで地元良さが隠れてしまうという参加者の意見に対し、高木会頭は「首都圏への一極集中の流れは、世界のどこの国でも起こっているのが現実である。それは避けられるものではないし、消極的に捉えなくても良い。むしろプラスの方向へ転換する事が大切。地元良さを見出し、時間を上手に作って、仕事も遊びも沢山の経験をして欲しい。そのため協力であれば、会議所としていくだけでもする」と語られた。

参加者の成長を少しでも手助けしたいという願いを込めて参加者の発言に真剣に耳を傾け、過去の自分を重ね合せながら人生観を語られた。

「仕事に遊びに：何事にも全力で取り組んで欲しい」

会頭
高木 繁雄 (株北陸銀行 特別参与)

会場
「PARTY DINING FUNKY'S」
富山市総曲輪2-18-6

【参加者】
真木 大輔 (有真木工業 代表取締役)
田村 忍 (タムラ建築 代表)
五十嵐 亮 (有富山メディアアーク 代表取締役)
村野 秀治 (株ビレッジ・フィールド 取締役)
宇尾 正彦 (株保険ステーション富山支店 支店長)
尾山 純子 (有コスモ企画 営業)
大塚 康平 (大塚消火器店 主任)
沢田 帝 (良久工業(株) 代表取締役)
渡邊 智美 (日本海広告(株) 取締役)



副会頭
河上彌一郎 (河上金物株式会社 代表取締役社長)

会場 「和の酒和の膳ばやし」
富山市内幸町2-1

【参加者】

長谷川英利 (有)プラス 代表取締役
高橋 由将 (有)高橋自動車 代表取締役社長
野原 顕龍 (マルエン株式会社 マネージャー)
砂子阪将司 (株式会社阪工業所)
渡辺 佑一 (株式会社速星精工 代表取締役)
長森 稔 (株式会社ミツホ建設 専務取締役)
酒井 克宗 (YSP中央)
堀内 仁志 (株式会社シーズ 代表取締役)



「人生を振り返ってみて初めて、自分が何者であるかわかる」

「今日はよろしく」と気さくに会場へ入られた河上副会頭の姿に、参加者は幾分リラックスできた。酸いも甘いも噛み分けてきた副会頭。参加者の緊張を感じた副会頭の心遣いで、乾杯とともに和やかなムードで談義が始まった。

「人生のターニングポイントで、人として何を学んできたか振り返ってみて、初めて自分が何者であるかわかる」そう語られる副会頭に会場の皆が引き込まれていった。

また、「多くの経験をするのが大事。経験が伴わない言葉には力がない。若い皆さんには色々な経験をして欲しい」と参加者に強いエールを贈られた。

参加者の平均年齢は40歳。悩み多き時である。お酒を飲み、胸襟を開く参加者は、副会頭の大きな人柄にも引き込まれ、次第に様々な質問、相談を投げかけた。

「調子の良いときは、誰でもまわりに人が集まる。苦しい時にこそ助けてくれるのが本当の仲間である」「一人でできることには限界がある。人は周りにいる皆さんに助けてもらって初めて多くのことが出来る」等、参加者にとって金言ともいえる言葉を贈られた。

終わることのない談義。時間は瞬く間に過ぎ、副会頭は参加者と場所を変えてさらに熱い談義を交わされた。

副会頭
翠田 章男 (株式会社ンボ飲料 代表取締役社長)

会場 「FABURI-DINING OAZY総曲輪店」
富山市総曲輪3丁目2-10

【参加者】

荻輪 寿宏 (ミノワ社会保険労務士事務所 代表)
南部 尚 (稲見産業株式会社 取締役富山支店長)
中川 武秀 (有)八尾興業 富山支店長
柴田 吉次 (株式会社エイチエフエクト 代表取締役)
田辺 行雄 (植木屋たなべ 代表)
青木 啓明 (有)青木工業所 代表取締役社長
松尾壮一郎 (株式会社富士総合保険サポート)
西 洋二 (中部観光株式会社 営業課係長)
中西 昌平 (株式会社ナカニシ 専務取締役)
高柳 良 (お臺ドクター 代表)



「失敗を恐れず、色々なことに挑戦してほしい」

翠田副会頭は「若い皆さんの話を聞くことを楽しみに参加しました」と優しく挨拶されると、最初緊張していた参加者は次第に副会頭と打ち解けはじめ、居酒屋ならではの和やかなムードとなっていく。

副会頭が青年部の21代会長ということもあり、青年部活動の過去と現在の比較検証から談義が始まり、これからのように活動を行っていくべきかアドバイスされた。

また、「農耕民族である日本人は与えられた制約条件内で成果を出すことは得意だが、制約条件そのものを変えることは狩猟民族である海外の人より苦手だと思う。この日本人の性質は、経済状況が良好な時代には良いのだが、良好とはいえない時には、その状況そのものを変えようとする発想と気概が必要になる。青年部活動に限らず、若い皆さんには失敗を恐れずに色々なことに挑戦してほしい。この言葉に参加者は特に感銘を受けていた。

そして、副会頭は「お客様を第一に考えることが会社の利益につながる。『利他』イコール『利己』の経営が大事ではないだろうか」と顧客第一主義の重要性を説かれた。談義の中盤には、副会頭からの差し入れワインで改めて乾杯し、政治経済だけでなくお酒にも詳しい副会頭の一面にも参加者は魅了されていた。

副会頭
大津賀保信 (ダイト株) 代表取締役社長

会場「魚富」
富山市新富町2-4-4

【参加者】

五十嵐勝彦 (菱越電機株) 課長代理
駒見 良平 (株) コマヤ 専務取締役
肥田 史郎 (株) RMS保険センター 営業事業部長
岡田 健一 (有) カーショップ岡田 店長
佐々木馨一 (有) 佐々木 取締役
小山 浩二 (小山浩二建築設計事務所) 代表
木村 英樹 (木村黒板株) 専務取締役
宇於崎勝一 (株) アドプロ
西田 隆宏 (株) LiStar 代表取締役社長



「自分をコントロールし、一所懸命になろう」

初めに、就任されて約4カ月の大津賀副会頭は、これまで色々な経済団体の役職を歴任したこと、当所の副会頭に選任された経緯などについて語られた。また、「私自身も日々、『会社を躍進させたい。社員を幸せにしたい』と努力しているが、業界だけでは視野が狭くなってしまっているので、商工会議所の皆さんとの交流から色々なことを教えていただきたいと思っています」と語られ、青年部の組織や活動に高い関心を示され、参加者に入会の動機等を尋ねられた。

そして、青年部活動はまず、頑張るぞという気持ちが必要である。活動は楽しいと思うが、楽しむことが目的になってそれだけにのめり込んではいけない。経営者にとって一番大切なのは、自社業であり、社員である。自分をコントロールし、本業を忘れることなく一所懸命に活動して欲しいとアドバイスされた。

また、組織のあり方について「ルールや規則もあるだろうが、個々の技量はバラバラであることを理解し、自分の器も理解する。従業員がわかり易い具体的な目標を各々が持ち、その役割を果たしたならば、それを褒めてあげること大切」と付け加えられ、終始笑顔の絶えない談義を締めくくられた。

副会頭
山田 岩男 (富山電気ビルディング株) 取締役社長

会場「婆娑羅」
富山市総曲輪1-4-3

【参加者】

村家 幸伸 (むらい食品株) 商品部長
大森 宏樹 (写真の大森) 代表
勝原 光彦 (株) 勝原塗装 代表取締役専務
森実 智洋 (下ヤマ商事株) 取締役
前田 一郎 (株) MAEDA 代表取締役
田中 七海 (株) Rien 代表取締役
早坂 健司 (早坂鉄工株)
吉田 勇一 (有) アイム 部長
金山 紗希 (ラフエドニユイ) 代表



「地道な努力で、必ず道は開ける」

山田副会頭も就任されて約4カ月。この会場では副会頭が20年余り勤められた銀行員時代や現在の会社に入社された当時のことなどが話題となった。

「私は東京育ちだが、東京で働くことへの執着は特になかった。大きな会社で歯車となって自分が見えなくなるより、地方の銀行で働くことが自分の存在感を発揮できると考えた」と銀行に就職した経緯。そして、「商店街を歩き回るなど地道な営業をして、多くの人間と出会った経験が自分の糧となっている。若い時の体験や人間関係が現在の仕事や生き方に大きく影響している」とも語られた。

また、現在の会社での社運を賭けたプロジェクトを振り返りながら、「自分の意思をしっかりと持ち、地道に努力を積み重ねていくことが大切。努力を続ければ必ず道は開ける」と、未来の富山を担う参加者へ期待を込めて熱いメッセージが贈られた。

経営者そして人生の先輩の言葉にうなずきながら聞き入る参加者。和やかな雰囲気談義が深まっていった。

談義後の感想

経験から話される言葉のどれをとっても、心に響きました。素晴らしい時間を過ごせたことに感謝でいっぱいです。



経営を教えていただいただけでなく、人生についても考えることができ勉強になりました。

顧客の立場に立って仕事をする大切さを語っていただき、大変有意義でした。この談義が広がれば良いと思いました。

経営者として様々な事を勉強していかなければならないと再確認できました。



居酒屋という本音を語り合えるという場のためだろうか。参加者のほとんどが、正副会頭とは初体面であったが、談義では活発な意見が飛び交った。参加者は何を感じ取ったのだろうか。様々な感想が寄せられた。

若い我々の話を熱心に聞いて、アドバイスいただいたことに感謝します。仕事や地域貢献に一層邁進したいです。



経営者として、人としてなど、幾多の困難を乗り越えてこられた正副会頭の言葉一つひとつにずしりとした重みを感じ、参加者にとって今後の人生の糧となるまたとない機会となったようである。参加者の更なる飛躍に期待したい。

会社の経営者に必要な大切なものを感じることができ、今後の人生の糧となりました。

お酒も入り本音でお話が出来ました。大変楽しい時間を過ごすことができました。

副会頭とお話できる素晴らしい時間でした。事業所を大きくすることの大切さを教えて頂き感銘を受けました。

経営者とはこのような方のことを言うのだなと感じることができ、勉強になりました。

